

鹿児島県阿久根市（国内 41 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 20 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は平野部に位置し、農場周辺は畑地が広がっている。農場南側は涸れ沢があり、通常は農場からの排水が流れるのみとのこと。農場から約 500m 離れた位置にため池がある。
- ② 調査時に、農場から約 1 km 離れた水田では、ツル 6 羽を確認した。
- ③ 当該農場はセミウインドウレス鶏舎 1 棟と高床式開放鶏舎 1 棟の計 2 棟からなり、発生時はセミウインドウレス鶏舎は空舎、開放鶏舎では採卵鶏が飼養されていた。
- ④ 開放鶏舎は南北 2 棟からなるが、両棟は東西の通路で連結し、飼養管理は一体的に行われている。A 型 4 段ケージを 8 列有し、1 ケージ当たり 2 羽飼養していた。

2 通報までの経緯

- ① 農場によると、発生鶏舎（通報時 259 日齢）では通常 1 日当たりの死亡数は 6～7 羽程度であったとのこと。12 月 18 日に 31 羽の死亡があり、その一部が同一ケージ内で死亡し、その周囲で死亡鶏及び衰弱鶏が確認されたため、管理獣医師を介して家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 発生鶏舎は農場の東側に位置していた。農場によると、死亡鶏は鶏舎入口から見て鶏舎右壁側（南側）を中心に鶏舎中央付近最上段の隣接した 3 ケージ及びその直下のケージに偏在し、最上段で同一ケージ内の 2 羽を含む 5 羽の死亡、その直下の段でも 3 羽の死亡が認められたとのこと。調査時は、発生箇所周辺の殺処分が完了しており、生存鶏に異常は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 農場によると、当該農場では農場主、正規職員 4 名及びパート職員 5 名の計 10 名が従事しており、正規職員のうち 2 名が鶏舎ごとに担当を決めて鶏舎管理し、残りの 2 名が鶏舎内の鶏糞作業を担当していたとのこと。鶏舎管理担当者が休み等不在の際は、鶏糞作業担当者のうち 1 名が鶏舎管理を実施することがあり、その場合の作業当日は鶏舎管理のみを実施し、鶏糞作業は実施しないようにしていたとのこと。
- ② パート職員 5 名は集卵作業に従事しており、鶏舎管理との行き来はなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場と隣接する私道との境界に柵等は設置されていないが、衛生管理区域入口に消毒ゲート及び立入禁止看板が設置されていた。
- ② 農場によると、車両が農場に入る際は、衛生管理区域入口に設置された消毒ゲートで車両消毒を実施しているとのこと。
- ③ 従業員が衛生管理区域に入る際は、農場外の従業員駐車場に駐車後、消毒ゲート横の踏み込み消毒槽を通過し、集卵室併設の更衣室入口で踏み込み消毒の上靴を脱ぎ、ハンドスプレーによる手指等の消毒の後、更衣室内で衛生管理区域専用の外衣及び長靴を着用しているとのこと。
- ④ 衛生管理区域に出入りする飼料運搬業者や集卵業者は、系列会社のマニュアルに基づき農場専用作業着や長靴を持参して着用し、手指消毒を行っているとのこと。その他の電気工事等の業者についても、専用作業着又は防護服への更衣、長靴への履替え、手指消毒を行っているとのこと。
- ⑤ 従業員及び外来者が発生鶏舎に入る際は、外階段 1 階部分で靴底を踏み込み消毒後

に、階段2階のすのこ手前で衛生管理区域専用長靴を脱ぎ、すのこを越えて鶏舎専用長靴を靴底消毒後に着用し、ハンドスプレー及びジェット噴霧器による手指・全身消毒を実施した後、鶏舎専用手袋を着用しているとのこと。

- ⑥ 農場内の踏込み消毒槽の消毒液（逆性石けん）は毎朝交換しているとのこと。
- ⑦ 鶏舎周りの消石灰は天候を踏まえつつ、週に1回程度散布し、雨の後は迅速に散布しているとのこと。開放鶏舎1階部分外壁全周には3m間隔で噴霧器が設置されており、消毒液を3時間おきに3分間自動散布しているとのこと。
- ⑧ 発生鶏舎は、モニター屋根及び鶏舎側面に金網（南北壁面外側は2cm×2.5cmの亀甲網、モニター屋根外側は2cmの亀甲網及び格子網）及びロールカーテンが張られたスリット状の吸気口があり、主にモニター屋根のロールカーテンの開放により外気を引き込んで吸気している。夏季は鶏舎内のファンを稼働させ、鶏舎奥側に設置された排気扇から排気が行われる。通報前数日は冷え込んだため側面のロールカーテンは閉鎖し、モニター部のみ日中は南北側面、夜間は南側のみを開けていたとのこと。
- ⑨ 鶏舎外部は防鳥ネットが隙間なく張られていた。発生鶏舎の1階扉付近に小動物が侵入可能な穴・隙間が複数箇所を確認された。
- ⑩ 集卵コンベアの鶏舎外への接続口にネットが張られており、稼働時以外は開口部に手で蓋をすとのこと。バーコンベア上部・側面は板とネットで覆われていた。
- ⑪ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、全ての鶏舎で鶏舎内のラインを通じて自動給餌を行っていた。
- ⑫ 飼養鶏への給与水は地下水を利用しており、除鉄、消毒を実施した上で鶏舎内に自動給水されていたとのこと。
- ⑬ 当該農場は鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の除糞と洗浄・消毒を実施し、空舎期間は45日程度設けているとのこと。
- ⑭ 鶏糞は2日に1回程度農場専用ショベルローダーで敷地内の堆肥場に運搬し、堆肥処理されるとのこと。堆肥舎出入口には防鳥ネットが設置されていたが、上部には隙間が確認された。製品化した堆肥は外部業者に納品（直近では12月17日）しているとのこと。
- ⑮ 死亡鶏は毎日の健康観察時に鶏舎担当者が回収して鶏舎外のダストシュートに搬入し、堆肥場作業担当者がダストシュートから敷地内の堆肥場に搬入し、堆肥処理しているとのこと。規格外の卵についても、同様に堆肥処理しているとのこと。
- ⑯ 重機や器材などの他農場との共用は行っていないとのこと。

## 5 野鳥・野生動物等対策

- ① 農場内では野鳥ではカラス、スズメ、セキレイを見るほか、ネコを見るとのこと。農場外でイノシシを見かけるほか、発生鶏舎外の南側地面で頻りに野鳥の糞を見かけるとのこと。調査時には、堆肥舎周囲にネコの足跡、上空にトビを確認した。
- ② 調査時、集卵舎内、鶏舎内、堆肥場内を含む農場敷地内で非常に多数のハエが認められた。駆除業者に相談しハエ対策を行っているが、改善されないとのこと。
- ③ 発生鶏舎では、空舎期間中にスズメが鶏舎内に入り込み、位置的に除去できない天井近くの高所に巣を作り住み着いているとのこと。調査時に、複数のスズメが鶏舎内で確認された。
- ④ 鶏舎内では12月からネズミを見かけるとのこと。ネズミ対策として殺鼠剤、粘着シートを設置しているとのこと。調査時、発生鶏舎鶏舎の外壁沿いで捕獲されたネズミを確認した。また、鶏舎内ではネズミによる断熱材のかじり跡が認められた。

(以上)